

チンプンカンパンを楽しもう

俗に言う「ちんぷんかん」は江戸時代から文献に見える古い言葉で、儒学者の難しい言葉遣いをひやかしたものの、とか、長崎にやってきた異邦人(中国人が最も多い)の外国語を指したものの、とか、諸説あるようです。現代では国語の授業の「カンブン」がにが手な受験生のツイートに見える言葉、と言えるかもしれません。でも本当はさまざまな楽しみ方があるのです。さあ、コロナで久しくお休みしていた「国語」セミナーの再開です。

講師 **藤井 倫明先生** (九州大学准教授＝中国哲学史)

「意味」か「意図」か——中国思想に流れる2つの言語観

中国の儒教には「経書」として尊ばれている書籍群がありますが、この「経書」に対する解釈は一様ではなく、歴史上、種々異なる解釈が出現しています。では、なぜ同じ儒教でありながら、こうした解釈の違いが生じるのでしょうか。今回の講義では、テキスト(言葉)の持つ「意味」と「意図」という二つの側面に注目し、言語観の違いという視点から中国思想における「経書」解釈の問題を考えてみたいと思います。

講師 **静永 健先生** (九州大学教授＝中国文学)

「剽窃」か「オマージュ」か——『唐詩選国字解』の諸問題

江戸時代到大ベストセラーとなったのが明の李攀龍撰と言われる『唐詩選』ですが、その最大の火付け役となったのが服部南郭の講義録と言われる『唐詩選国字解』という書物です。これら二つの書籍には、当時の中国と江戸の「出版」に絡んだ複雑な裏事情があります。しかし、その大流行の原因を作ったキーマンは、何と明末の上海に生きた「盲目の読書家」でした。この驚異の異人をご紹介します。

日程・会場 **2023年2月24日(金) 14時30分～16時30分**
ハイブリッド開催

(1) 対面：福岡市中央区天神2-12-1

天神ビル11階9号室 (定員120名 開場14時00分)

(2) オンライン：Zoom (定員300名 入室用のリンクは
開催1週間ほど前にメールでお送りします)

お申込み

参加無料

- * 国語教員に限らず、どなたでもご参加になれます
- * 2月22日(水)までに、右のQRコードより登録を行ってください
- * QRコードが読み取れない際は、当センターのHPからお申し込みください
URL：<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~cslp/>



お問い合わせ先：九州大学人文科学研究院附属言語運用総合研究センター (cslpstuff@gmail.com)

主催：九州大学文学部・社会連携推進委員会

運営：九州大学大学院人文科学研究院附属言語運用総合研究センター

後援：福岡県高等学校国語部会